

先日、オランダのエディット・フェルメール女史が日本にこられた。本誌にも何回か連載を書いて頂いたことがあり、日本には数度目の訪問なので、ごく僅かの東京滞在の期間をさいて、大学院生の保育研究のレポートの討論に加わって頂いた。そのときに、そもそも、「保育」という語を西洋語で何と言いかというところが問題になった。これはいつも私は困難を感じてきたことであり、内容を十分に理解し合った上で、どうするかを考えるのに良い機会と思い、時間をかけて論じた。私はこれまで、early childhood education, Kindergarten education, child care など、時によっていろいろの語を使ってきたが、いずれも適訳と思えない。英語の education は「教育」であるし、care は世話とか養護とかの意味になる。子どもの生活全体に心を配り、子どもの可能性を育てるという意味での「保育」に対応する西洋語があるのかどう

か、もしもそのような語彙がないとすれば、西洋には教育の概念はあっても保育の概念はないのか、などいろいろの疑問が生じる。フェルメール女史は、私共がホイクと言ったとき、ホイクと区別がつかず、何度も説明を要したのであるが、遂に理解されたとき、オランダ語では オランダ語 opvoeding と オランダ語 opvoeding と二つの語があり、前者は教育に、後者は保育に相当することを語られた。英語のエデュケーションもドイツ語のエアツィーウングも上から教えこむ語感が強いが、オランダ語のオプフォーディングは全人的配慮を含むものであって、ランゲフェルトが繰返し強調しているのは、このことである。これは幼児期のみでなく、発達のすべての時期に強調されるべきものであることを述べられた。今後、あらためて考えてみたい問題である。

(津守 真)

幼児の教育 第八十二巻 第二号

二月号 ©

定価三〇〇円

昭和五十八年 一月二十五日 印刷
昭和五十八年 二月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行人

東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

●本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします